

## 福井県支部

### 観光資源活用による地域活性化事例と福井県における活用策

人口減少や少子高齢化が進むわが国において、観光は地域における消費の増加や新たな雇用の創出など幅広い経済効果をもたらすとともに、地域の人々が誇りと愛着を持つことができる活気に満ちた地域社会の実現をもたらすものとして注目を集めている。

このようななかで、大都市と地方の格差是正を目的に、地域資源活用支援事業がスタートし、すでに 400 を超える事業計画が全国認定され進められているが、観光資源の活用計画は 34 件とその 1 割に満たない。

その理由として考えられるのは、指定された観光資源はこれまで長年にわたり作り上げられてきたイメージが強く、そこに新たな商品を結びつけることの難しさが、また地域全体が観光資源になっているため、個々の事業者だけで計画を実現するのが難しく、多方面の連携が必要であること。

一方で、観光行動は変化し、従来の見学型観光地は活力が低下し、体験型観光へ注目が集められ、さまざまな取り組みがスタートしている。このような取り組みは、場合によっては「まちづくり」活動にまで発展し、地域住民を巻き込み、観光客の受け入れ役にまで発展させている事例も多く輩出されている。

今回、事例として紹介した「長崎市」や「萩市」では住民が観光ボランティアガイドとして活躍し、「長野市」や「川崎市」では景観形成などの面で地域と連携し、「輪島市」では農業を通して地域と県外客を結び、「黒部市」では産業と観光で地域内を結び、「弘前市」では地域の文化体験を通して観光を見直す取り組みが進められている。

このような、「観光」を多面的にとらえ、地域の歴史や文化、街並みや農業、産業と幅広い地域とのつながりのなかで「魅力」を高める取り組みが全国でスタートしており、観光資源活用による地域活性化に向けて、地域内の「連携」が重要なカギを握ることになる。

そこで、観光事業者が観光資源を活用していくうえでの方向性をここでいくつか示した。

- (1) 磨く・・・観光資源の見直し、新たな資源の創出
- (2) 結ぶ・・・観光資源の活用に向けた地域資源の連携、事業者間の連携
- (3) 広げる・・・住民の協力を含めたまちづくり活動との連携と継続的な取り組み

これらの方向性のなかで具体的な取り組み内容、連携策について例示したが、いくつかの全国の取り組みのなかでも、まず「できることから始めよう」という気負わない例もある。

まずは、「やってみる」ことであるが、その前に観光地や観光資源をしっかりと見つめたマーケティング活動が必要である。